

町政を問う

町立病院存続のために町民と一緒に

鈴木 裕美
議員

町長 状況を見ながら判断する

問 厚生労働省は、高齢化に合わせて病院の病床削除をする地域医療構想が進まないため、再編・統合が必要として全国の公立病院等の病院名を公表し、その中に標茶町立病院があげられていた。

報道によって、町民の多くは町立病院が無くなるのではないかと不安を感じている。病院が無くなると雇用の場の減少、人口の流出、関連する取引先等、経済に大きな影響を与え人口減少にも拍車をかける。

厚生労働省は制度改正等で病院経営を左右でき、来年9月までに結論を出すことになってい

る。町立病院新改革プランでは、現在60床のベッド数を50床として、10床は介護医療院とする考えも検討されている中、再編・統合は絶対にするべきでなく、町としても反対の立場をはっきり取るべきと考えるが、現在の状況はどのようになっているのか。

町立病院を存続し続けるために、病院の使命、役割を示し、住民の命を守る最後の砦として存続に向け町民集会や懇談会等を開催し、一緒に考えていくことが重要と考えるがいかがか。

答 釧路管内では、標茶町立病院と一緒に摩周厚生病院、町立厚岸病院が公表された。札幌で開催された意見交換会では、地域ごとの実状を勘案したものではないとの説明を受けた。また、釧路圏域地域医療構想調整会議で、町として今回の発表が唐突であるとの意見を述べ、新病

院改革プランで規模縮小の検討を深めていくこととしている。

住民代表で構成する町立病院運営委員会や議会に説明し、状況を見ながら町民と一緒に考える機会を判断する。



標茶町立病院

「憩の家」基本設計の進捗状況を

鈴木 裕美 議員

問 多くの町民は「憩の家かや沼」の一日も早い再開を望んでいる。最近、入浴、レストラン、宴会は、町民の利用を念頭に、また、宿泊についてはグレードアップとの考えで基本設計プランが来年2月ごろにはできるとの事を聞き及んだ。

町民は、どのような施設になるのか関心をもっている。町民に対し、町としてのビジョンを示し、現在の状況を報告してはと考えるがどうか。

答 設計委託は、令和2年3月30日までの工期としている。

釧路湿原国立公園内唯一の温泉宿泊施設で、立地環境を活かし、町内外の多くの人に利用される施設の再開を、限られた予算で実施したい。町民には成果品として報告を受ける前に、ある程度の内容が詰まった段階で概要説明できる場を設定したい。

部屋の中については、今のホテル業界の形、調度品等々含めて、少し良いものにしてと助言があったが、その中から判断したい。



閉鎖中の憩の家かや沼

鴻池 智子
議員

阿歴内西和地区に新たな防災井戸を 町長 給水体制の検討をしたい

問 現在、阿歴内西和地区の防災井戸が

使用できない状態となっており、不測の事態への対応はされているとのことだが、家畜用の対応については未だ充分ではなく不安視されている。

各農家が災害時に迅速に対応できるよう新たな防災井戸の確保が急務であると思う。地域の話では家畜の飲み水も含め一日当たり約6トンの水が必要とのことである。それらを踏まえ以下のことについて伺う。

防災井戸が廃止となり約1年がたっているが、その間の町の対応と新たな設置にかかる費用・完成までの日数、また、この地域の農家戸数、家畜数、必要水量を伺う。

今までであったものがないという不安を取り除き、地域の人たちが納得する対応が必要と考えるがどうか。

答 非常用飲料水450ℓをペットボトルで備蓄している。

家畜用は、消火栓、配水池、茶安別地区防災井戸等からタンク車での輸送対応を想定している。

井戸新設には150mの深さまで試験すると、1,800万円かかる試算だ。

工期は、2カ月程度の見込みで、農家戸数は乳牛、肉牛で34戸、馬が12戸で、乳牛と肉牛合わせて1日当たり約267t、馬で4tが必要량だ。

阿歴内地域での防災時の給水体制の検討を重ねていきたい。



廃止された阿歴内西和の防災井戸

地域の高齢者が集う場所の環境づくりを

渡邊 定之
議員

町長 研究、検討していきたい

問 各地域に高齢者の人たちが集い、文化的サークルやお喋りをしながら楽しむことのできる場所、環境はどの程度あるのか聞く。

地域の文化活動で木工、陶芸等のサークルで仲間づくりをしながら活動をしている施設の改善はされたが、昼食をとったり談話するなど、小上がり風なくつろげる場所の環境の改善をするべきと考えるがどうか。

活動に参加したくとも交通の手段がなく参加できないでいる高齢者に対する支援を考えるべきではないか。

街の中では試験的なバスの運行がされているが、遠隔地で生活している人たちにいろいろな場所に集まってもらい、生活改善をしながら健康を維持していくためにも、地域の中で孤立することなく生活していくためにも大きな課題であり、ぜひ取り組むべきと考えるがどうか。

答 各地域に高齢者が集うことのできる場所、環境は約40箇所をこえている。

日常的に利用団体や地域住民の要望、意見等をくみ取るよう心掛けている。また、町政懇談会も開催しており、緊急性や優先順位の観点から取り組んでいる。

慢性的な交通手段の確保については、地域の課題ということは十分認識しているが、人手不足と担い手がない状況であることから、この住民要望へのきめ細かな対応は困難であるが引き続き研究、検討していきたい。



虹別木工サークルの部屋

渡邊 定之 議員

家族農業を守り育てる観点から、牛舎等のリフォーム助成制度を

問 日米貿易協定が農業に与える影響について町長の所見を伺う。

政府は、畜産クラスターなどの膨大な予算を投じているが、それは本町の酪農、畜産業など本町の経済を支えている中小規模の家族経営には及んではいない。

中小規模の家族経営への支援を重視する立場から牛舎、畜舎等農業施設のリフォーム助成制度、無理のない規模から新規就農ができる支援策を講じるべきではないか。

答 北海道における影響額の試算は、価格についておおむね妥当であると感じている。

本町の場合でも大多数を占めるのは中小、家族経営農業である。畜産クラスターについては、中小、家族経営にも幅広く活用できるように要件を緩和している。

リフォーム支援は、高齢化や担い手不足に対して労働負担軽減に資する省力化機械装置を導入することに

よって解消すべきだ。
新規就農の支援策は、基本的には就農者の希望に添っていると判断している。

渡邊 定之 議員

中虹別旧校舎の展示即売会に物心両面の支援を

問 旧中虹別小学校で毎年11月第2土曜日、日曜日の2日間にわたり展示即売会「月の森、冬支度」が開催され今年も大変な賑わいであった。今後このような使われなくなった建物の活用と、町の文化、経済活性化の活動についてどのような考えを持っているのか伺う。

また、この様な催しについて物心両面の何らかの支援を考えてはどうか。

答 展示即売会「月の森、冬支度」は主催者が自ら企画立案され、目的をもって創意工夫を凝らした内容で開催されているものと推察している。町としてもこのような催しが引き続き行われることを期待する。

この旧中虹別小学校においても地域の意向を反映した貸付となってい

る。
過去には「広報しべちゃ」で紹介したこともある。物質的な支援は相談があった中で検討を行っていき



旧中虹別小跡での展示即売会

深見 迪 議員

老人性難聴者に補聴器の購入補助を

町長 アンケートも活用し調査研究していく

問 老人性難聴は心身全般の健康、ひいては命に関わる問題としてとらえるべきである。

各国の研究では、難聴であることが後の死亡率の増加につながるという結果や脳機能低下やアルツハイマー病発症率の上昇やうつ病発症率増加という結果を出している。この点について本町の実態を聞く。

このような実態は、少子高齢化時代を迎えてあらたな課題であると考え。身体障がい者手帳の交付の対象とならない軽・中度等の難聴高齢者に対して、補聴器の購入に要する費用の一部を助成することが、高齢者の利便性向上や社会参加を推進することになると考えるがどうか。

答 認知症との因果関係については、本年5月に公表されたWHOの認知症予防のためのガイドライ

ンによると、その中の認知症予防のための12項目のリスク要因の一つとして難聴の管理があげられている。認知症や介護予防の取り組みとして認知症カフェを本年6月から開設し、閉じこもりがちな高齢者への対策を図ってきている。

本町では2件ほど安否が確認できなかった例がある。アンケートの設問内容を工夫するなど実態把握に努めていきたい。

購入費助成については、北海道や他自治体の状況を注視していきたい。

深見 迪 議員

厚労省の地域医療構想に反対の取り組みをすべきだ

問 厚生労働省の公立・公的病院の再編・統合などを検討するべきとして、標茶町立病院、町立厚岸病院、摩周厚生病院が対象としてあげられた。

この地域医療構想は、病院を減らして国の医療費を少なくしようという構想である。2025年をめざしていると思うが、この件について町長の所見を伺う。

急性期医療を担う標茶町立病院を

守ることは、町民の命と健康を守ることである。改めて町長の決意を伺うと共にこれを許さない具体的な取り組みについて伺う。

答 医療機関の設置者として本町も今回の発表が唐突であり、驚きを隠せない。地域の実態を理解していないこと等について意見を表明してきたところである。

標茶町立病院は、一次救急を担っており、地域住民の生命を守る大きな役割を果たしている唯一の医療機関としての重要な役割は、今も今後変わらないと考えている。

町立病院は町内唯一の医療機関であり、地域住民の命を守り続ける病院であり続けるため、町立病院の重要性を説明していきたい。



町立病院待合室

深見 迪 議員

教職員の「変形労働時間制」は実施すべきでない

問 「一年単位の変形労働時間制」は、教職員の長時間過密労働をいっそう過酷なものにすることにすると考えるが教育長の所見を伺う。

これを導入するかどうかは、市町村で判断できるよつになつていますが、導入するべきではないと思うかどうか。

現場の教職員はどう考えているか伺う。また、長時間労働の現状と解消の取り組みを聞く。

答 現時点では国が法的に定める指針が示されていないので、今後指針が示された段階で検討するべき制度と考えている。

市町村の判断で導入することが可能となっているが、指針を見て教職員の負担とならない制度運用を考えている。

聞き取り調査では、おおよそ定時退勤者が全体の25%、1、2時間の時間外勤務者が50%、2時間以上の時間外勤務者が25%の結果となっている。長時間労働を出来る限り解消できるようにすすめていきたい。

問 厚岸道立自然公園の国定公園化をめざす期成会が、去る10月25日に開かれたことが新聞報道であった。

厚岸町、浜中町、釧路町3町の団体に加え、オプザバーとして釧路総合振興局等多くの関係者が国定公園化最終決定まで活発に運動していく。さらに局長は自然や文化を体験する「アドベンチャートラベル」の場として、同公園をはじめとする釧路管内が有望であることを力説している。

自然を守り、環境保全合わせて観光振興を図る対策は、今日の道東経済には不可欠である。国定公園をめざしている隣接する町として次の点を伺う。

一、公園予定地に本町は入っていないのか。
二、上流域における産業振興に影響はないか。
三、本町の観光振興と

厚岸道立自然公園の国定公園化への本町の対応は

本多 耕平 議員

町長 観光振興の可能性はあると考えている

自然を守り、環境保全合わせて観光振興を図る対策は、今日の道東経済には不可欠である。国定公園をめざしている隣接する町として次の点を伺う。

四、接点はどのように考えるか。狩猟、有害駆除事業への影響はないか。

答 国定公園の予定地域に、保護が必要な地域として下茶安別の一部が含まれる。

農林業活動については、現状の利用状況では影響はないものと判断している。

別寒辺牛湿原の上流部保護を目的としており、直接の利用による観光振興ということには結びつくとは考えていないが、指定されれば、本町は国立公園2つ、国定公園と合わせて自然公園を3つ擁する町となり、観光振興の可能性はあると考えている。

別寒辺牛川とチャンベツ川の流域は第2種特別地域となる予定だが、現在、国指定の鳥獣保護区で狩猟禁止区域となっており、保護されているので国定公園となっても変わりはない。



国定公園予定地に入る下茶安別地域

本多 耕平 議員

バイオマス産業都市計画の進捗状況を問う

問 平成28年10月5日、バイオマス産業都市の認定を受け、先の議会において計画案が提示された。

以来、私をはじめ同僚議員が再三質問をしているが、その内容は全く先の見えない答弁である。

具体的に言うなら計画では10年で4カ所のプラント設立が予定されている。地域経済振興策上でも大きなプロジェクトと考え、改めて計画の進捗状況を問う。

答 平成30年度に、北海道が実施するバイオマス由来水素の活用可能性調査に応募し、令和元年度から国が水素社会に向けた実現可能性調査を行い、調査該当となるか結果を待っている。

FIT制度の代替え案として、生産したバイオガスを町内利用に向け、バイオガスプラント整備、利活用調査を実施し、調査結果に基づき対象農家の戸別ヒアリングを実施している。

光信 議員 類瀬

町有林の適正管理と放置資源の有効活用を

町長 関係機関も交えての研究が必要

問 町有林の間伐材や風倒木は、林外への搬出経費と木材的価値が見合わないとして、林内に放置されている。

しかし、この措置は害虫を大発生させる危険がある。恐れるのは、平成27年から28年にかけて、オホーツク管内や十勝管内で約2,700haのカラマツ林を枯死させた、カラマツヤツバキクイムシの発生である。本町でも、約3haを皆伐し搬出した経験がある。当時、町に専門性の高い職員がおり、被害の拡大を未然に防げたが、現在はそうした状況にない。

な森林施業の一環として、速やかに林外に搬出し、害虫による全滅を回避すべきではないか。搬出した木材は、高騰が続くおが粉の原料として廉価で提供し、酪農畜産のコスト削減に資するべきだ。また、風倒木処理後の植栽樹種に、本町の民間企業

が種苗生産に取組むクリーンラーチを採用し、ブランド化を進める考えはないか。

答 風倒木被害は、点在している状況にあり、適正な維持管理により軽減できるものと考ええる。主伐や間伐後の林地残材搬出は、現状では販売して得られる収益を費用が上回るため実施していない。他管内で大発生した害虫被害に対する危機管理という点では、相対的な経済性の中で検討しなければならぬ。また、専門性の高い職員の育成確保については、大きな課題と認識している。現状では、関係機関等に助言を仰ぎつつ、被害防止の最適な方法を考えたい。いずれにしても、労働力を始め集材費用の軽減などについて、関係機関も交えての研究が必要と考える。

林地残材を家畜敷料に活用することに関しても同様である。

風倒木処理後の植栽樹種にクリーンラーチをということについては、種苗の安定確保に至っていないと聞いている。クリーンラーチに限らず、種苗生産業全体に対する支援として、行政が可能な範囲を模索したい。

長尾 式宮
議員

主伐期を迎えた樹木を地元で有効活用・環境保全を

町 長 森林の健全性を確保していく

問 現在標茶町では直営林4,398、66ha、部分林326、65ha所有管理している。

昭和40年代からの輸入材との価格競争などにより、国産材の流通は減少の一途をたどっている。

それと同時に国では国土保全・水源涵養の観点から人工林の保全にも力を入れてきた。

それから時が過ぎ、現在では町有林でも主伐期を迎えた樹木が相当あると想像する。

それら主伐期を迎えた樹木を地域の産業振興推進のため、積極的に地元企業に活用してもらいたいと考える。

また、環境保全の観点から町でも植樹祭を継続しているが、間伐・ネズミ駆除等の保全もしっかり進めていかなければならないと考える。

主伐期を迎えた樹木の有効活用・地元産業振興について、町有林の保

全・これからの町としての環境保全に対する所見を伺う。

答 町有林面積は、約4,400haで、内主伐対象となる人工林は約1,000haとなっている。

間伐等の保育の状況は、平均年約44haの施業を行い町内の木材加工施設を持つ業者を中心に売り払いを行い、主におが粉や一般製材に加工されている。

今後も森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林材を生育させるための適切な造林、間伐等の保育を行っていく。また、環境に配慮した維持管理を図り、樹種の選定についても関係者の合意形成を図り、進めていく。



平成30年度 決算を認定

平成30年度決算審査特別委員会が令和元年10月9、10日に行われ、一般会計、特別会計、企業会計それぞれについて詳しく審議し、審査の結果認定すべきものとなり、12月10日開催の第4回定例会で認定されました。

会計名	区分	決算額		差引残高
		歳入	歳出	
一般会計		114億5,006万円	113億1,867万円	1億3,139万円
特別会計	国保事業	11億3,525万円	11億3,300万円	225万円
	下水道事業	5億750万円	5億750万円	0
	介護保険(事業)	9億772万円	8億8,017万円	2,755万円
	介護保険(サービス)	5億3,010万円	5億2,499万円	511万円
	後期高齢者医療	1億675万円	1億616万円	59万円
	簡易水道事業	1億4,999万円	1億3,488万円	1,511万円
	特別会計小計	33億3,731万円	32億8,670万円	5,061万円
総計(一般+特別)		147億8,737万円	146億537万円	1億8,200万円

公営企業会計・病院会計

総収益	総費用	当年度純利益
10億7,697万円	10億7,691万円	6万円

公営企業会計・上水道会計

収入合計	支出合計	当年度純利益
8,057万円	7,322万円	735万円